

令和元年6月20日現在

機関番号：16201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K21200

研究課題名(和文)現代中国農村女性の政治参加の実態とその社会関係・社会連帯に関する文化人類学的研究

研究課題名(英文) Cultural Anthropological Study on Political Participation of Chinese Rural Females

研究代表者

緒方 宏海 (OGATA, HIROMI)

香川大学・経済学部・准教授

研究者番号：10750044

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、遼寧省、福建省、広西チワン自治区の農村と漁村において、実態調査に基づき、農村女性の政治参加の実態と政治参加に影響を及ぼす社会関係、社会的連帯の要因について分析を行った。その結果、調査対象村落では、農村女性の政治参加に最も影響を及ぼすのは、夫や世帯を同一とする家族、親族であることを明らかにした。また農村女性の政治参加について、村に居住する諸個人の相互行為の結果や村民委員会の活動によって日々再生産されている側面を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の研究では、農村において社会的・文化的に構築された男性優位の性別秩序のなかで生きる女性という構図のなかで女性の政治参加を捉えていた。ここから抜け出して、農村女性の社会关系的要因などが政治参加に与える影響について未着手であった。本研究はまだ解明されていない中国農村女性の政治参加の実態を研究し、人類学の視点から女性の政治参加について新たな理論開拓を行った。農村女性を世代別に区分し、各世代に属する農村女性の何名かについて、彼女らが経験してきた政治的体験とそのライフヒストリーとを結びつけナラティブインタビューを行った。その結果社会関係の影響を受けながら、農村女性の政治参加の実態を解明した。

研究成果の概要(英文)：In this study, I analyzed the real state of political participation of rural females in agricultural villages and fishing villages of Liaoning Province, Fujian Province, and Guangxi Zhuang Autonomous Region in China. In addition, the factors of the social relation and solidarity which affect their political participation were analyzed.

This research is based on a fact-finding survey. In the villages under study, the results revealed that their husbands, family members who live together, relatives, and friends have a big influence on rural females' political participation. Moreover, an aspect was shown that their political participation is regenerated every day by the results of interaction with various individuals who live in the villages and the activities of the villagers committee.

研究分野：文化人類学

キーワード：農村女性 中国 政治参加 人類学 村民自治

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

中国では1980年代後半から農村において村民自治が実施されている。村民自治とは、村に関する全ての行政を村民自身で行う自治活動であり、民主主義的選挙と政策決定・村落運営が法的に規定されている。しかし近年政府は農業税を廃止し、行政は農民から税金を取らないが、農民は土地問題や医療といった社会保障など自分たちのことは村落内で解決するような風潮がある。その一方で村民委員会は、村民の利害対立の調整ができないまたは必ずしも民主主義的な村落運営が行われないことから村民たちの不満が暴動に発展する事例が数多く報告されている。こうした状況の中で農村の政治空間には、女性の多様な声が反映されていないことが判明している。

研究代表者はこれまで、中国遼寧省・山東省・広東省の農村や島嶼漁村において長期のフィールドワークを行い、村民委員会選挙の分析から、個人は政治参加において家族・親族係を用いてどのような政治的な行動をとり、その様式と行動結果が村民自治制度に及ぼす影響を与えるのかを明らかにしてきた。父系出自集団である宗族といった家族勢力が村民委員会に代わる村の実質の代理人であり、個人の民主主義的な村落政治への参加に対する弊害とされている問題では、村落政治の秩序を支えているのは、宗族という集団ではなく、信頼という「人格」を保障にした社会関係であり、個人は盲目的に宗族に従属しているのではなく、その親族関係の利用には、コアリション(目標達成するために形成する一時的同盟)の動的関係があることを示した。

また研究代表者は、これまで農村の村民委員会選挙の調査において、農村女性の投票率が低いことを痛感した。しかし研究代表者をはじめ、先行研究もまた、農村において社会的・文化的に構築された男性優位の性別秩序のなかで生きる女性という構図から抜け出して、農村女性の社会关系的要因などが政治参加に与える影響について未着手であった。

現在先行研究では、アメリカの社会学者は、農村において女性の政治参加の重要性について教育を受けた女性でも、投票権を行使する重要性を理解できない女性もいたことを指摘している。また中国の研究者も定量分析の結果から農村社会特有の男尊女卑の文化が女性の政治参加に悪影響を与えており、学歴が低い女性ほど投票の重要性を認識せず、共産党の政策を信じていないことを示唆した。だが属性的な要因や女性が家庭内での役割だけの説明では、農村女性の政治参加の実態に関する明確な結論を得られない。研究代表者が明らかにしたように、現代中国の農村は市場経済と政治参加の手段や方法は村民自治制度として確立しつつあるが、国は農村の民主主義的な政治参加の形態だけを追求してきてしまったために、農村コミュニティの実態から乖離してきてしまい、人々が当たり前のようにもっていた固有の価値規範の存在を見逃してしまっている。農村女性の政治参加の実態を明らかにするためには、社会学や政治学の定量分析から得られる政治的関心・有効性感覚の結果よりも、人類学が得意としてきた親族や社会関係、社会連帯に関する定性分析のほうが早急に研究を要するものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、まだ解明されていない中国農村女性の政治参加の実態を研究し、人類学の視点から女性の政治参加について新たな理論開拓を行うことである。

3. 研究の方法

(1) 文献研究

中国社会と共産党政府が農村女性の政治参加についてどう対応してきたかについて文献調査を実施した。中国の中央政府やNGOが農村で行っている女性の政治参加を促進している活動について文献資料調査と現地調査を行った。档案馆(公文書機関)にて、共産党政府が建国から今日まで農村女性についてどのような政策を実施してきたかを調査した。

(2) 現地調査

調査方法：滞在調査(参与観察)、インタビュー調査、アンケート調査を実施した。

調査対象：農村女性、村幹部、地方政府関係者、NGO関係者

調査地：本研究は、遼寧省、福建省、山東省、広西チワン自治区の農村と漁村において、実態調査に基づき、農村女性の政治参加の実態と政治参加に影響を及ぼす社会関係、社会的連帯の要因について調査を実施した。

4. 研究成果

本研究では、上記の研究目的に対して、その結果、明らかになった点及び新たな課題は以下の通りである。

(1) 村民委員会の選挙における女性の投票行動の分析

研究者代表者は、中国北方遼寧省の陸地農村、島嶼漁村、中部山東省農村、南部広東省農村、四つの村落内で行われた村民委員会選挙の現場において、農村女性の投票行動を分析した。まずアンケート調査から、農村女性は誰と村落政治の情報を共有し行動を共にしているかを調べ、選挙での投票先が同じかどうかを分析した。次に参与観察から、女性は、政府が要求される民主主義型政治参加の範囲内で、社会関係、社会連帯をどのように考量し、どのように行動するのかを調査した。一人の女性を起点にして、彼女が保有する社会関係のネットワークの広がり

とその構成員が、政治参加にどのような関連性と影響を及ぼすのかを明らかにした。具体的には、各村 50 名の女性を対象にして構造化調査票を用いて、「自分は村民委員会のすることに対してそれを左右する力はないという意見に対してあなたはどのように思いますか」などの質問を実施した。同時に本研究が扱う村の調査結果から政治参加について肯定的と否定的な考えを持つ女性を分類し、その属性及び家族・親族あるいは婦人会などの属する組織・グループについても調べた。

また家族・親族は、中国農村の人々にとって生活空間の重要な構成要素である。特に父系出自集団である宗族の結合関係が強く、集住という特徴を持つ。既に多くの先行研究が報告しているように、村民委員会選挙において、しばしば宗族が集団として一致団結し同じ投票行動をとることが指摘されている。従って女性の政治参加を検討するにあたり、父系血縁である宗族とどのように関わっているのかについて検討する必要がある。

その結果、調査対象村落では、農村女性の政治参加に最も影響を及ぼすのは、夫や世帯を同一とする家族、親族、友人であることを明らかにした。宗族による集団行動、親族の集票行動は、農村女性の政治参加に与える影響について少ないことが明らかとなった。特に離農に直面する村において、農村女性が村落内の政治と経済活動において、親族や宗族の影響を受けることが極めて少ないことが明らかとなった。また出稼ぎ労働者が多数都市部に移動している村では、村民委員会選挙において、農村女性の政治への関心は低いこと、その一方で既得権と関係が少ない女性票の流れが、選挙結果の行方を作用することを実感した。

(2) 中国社会と共産党政府が農村女性の政治参加についてどう対応してきたか

地方政府と村の村民委員会が女性の政治参加や投票率の低さについてどのように考えまた改善策を実施してきたを調査した。中国の中央政府や NGO が農村で行っている女性の政治参加を促進するキャンペーン活動について文献資料調査を行った。

また研究代表者は、農村女性を世代別に区分し、各世代に属する農村女性の何名かについて、彼女らが経験してきた政治的体験とそのライフヒストリーとを結びつけて調査できるナラティブインタビューを行った。これによって、農村女性の政治参加の実態と中国社会と共産党政府が農村女性に与えた影響について知ることができた。

毛沢東は 1965 年 5 月 27 日付の『人民日報』で「男にできることは女にもできる」というスローガンのもとで、男性と全く同じように働く（肉体労働）の女性が奨励された。農村女性は共産党の方針に従って肉体的な性差を考慮せず働いてきた。しかし今日でも女性の学歴レベルは全体的に低いままで、都市部で過酷な労働条件に晒され低い賃金で出稼ぎしているのもまた農村女性である。研究代表者は、中国社会と共産党政府が行ってきた農村女性の労働・教育政策を調べ、政治参加にどう対応してきたかを明らかにした。

その結果、世代の違いと各地域社会の農村女性に対する政策や教育によって、愛国心から生まれた盲目的な中国共産党への支持あるいは農村女性が共産党の政策に対する不信などによって心理的な要因が政治参加の程度に影響していたことが明らかとなった。

(3) 新たな課題

本研究の成果から、現在中国農村の村民自治制度をめぐる地域間差異に関する二つの問題が浮き彫りとなった。ひとつは共産党が当該地域や省ごとに実施する政策や統治の歴史的な経緯によって、村の政策の在り方に直接影響を及ぼしているか否かによる違いである。もうひとつは、経済が著しく発展している地域においても、経済の発展は必ずしも人々の村落政治への参加や村落の民主化には結びつかないということである。新たな研究課題として、中国の省などの地域間差異を比較分析することが必要である。また、同時に調査村に対して、女性の政治参加能力を高めるために、女性に対して選挙に参加することを奨励する仕組みなどの政策提案も行うことが必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

緒方宏海「農村女性の政治参加と宗族規範 中国山東省の宗族村落の事例を中心に」日本現代中国学会『現代中国』vol.91、57-73 頁、2017 年、査読有。

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。